

港区探索

雨の日も、
風の日も
お弁当運ぶ
三輪車

港区内を走りまわる
「宅配クック123」の
看板つけた三輪車（写真）

見かけた事ありませんか？

高齢者や障害者にお弁当を配達している和田さんです。六五歳から始めて今年七一歳。朝九時出勤、退社は夕方六時頃。

間に二時間中抜けがあり、一日約五〇食を配達しています。果てしなく続く猛暑日、凍てつく真冬日、台風や地震がきても休みなく働く和田さん。休日は土曜日と正月の三が日だけ。



玄関まで取りに出ることができない一人暮らしの高齢者のお宅ではベッドや食卓まで運んで置いてあげます。その為に十数軒分の力ぎを預かり、いつもジャラジャラとぶら下がっています。

「見守り」も欠かせない業務です。いつもと様子が違う、家の中で倒れた、近所の人から「うべ、救急車が来てたでえ」

と聞いたくそんな情報をキャッチして速やかにケアマネや関係者に連絡してくれます。

月初めには集金もあります。ふだん通りの配達をしながら。お金を用意できてない人が居れば何回も集金にまわらなければなりません。

和田さんの宅配弁当が多くの高齢者・障害者のくらしを支え命を繋いでいると、しみじみと感じます。ご本人もそれを実感しているから穏やかな笑顔を絶やさず、このしんどい仕事を続けてくれたのだと察します。その労働に対する賃金

は？といえは一日の実労働時間は五時間計算、時間給は最低賃金スレスレです。一か月皆勤なら手当がつくとはいうものの労働の中味に比して何と安い賃金でしょうか！

和田さんより一〇歳位若かった店長さんもストレスの多い仕事をされていた様です。先日癌で亡くなったと聞きビックリ。

在宅介護は弁当業界のこんな労働にも支えられています。仕事内容に見合う社会的評価と労働条件を！
せつに願います。



組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！